

俗耳談

市川寬齋口諾  
矢島泰度筆

四篇卷三

特別

15

1420

13



門 15  
號 1420  
卷 13

藤原 淡四編卷之三

藤浪氏藏

善山

天嶋泰度筆

一甲一袋の全りも各毛を...  
めく具る故一人の備...  
るに...物...  
研卯...  
下法...  
と...成ると...

昭和二十八年  
二月二十四日  
購求



板朱と云ふは、昔の抄物とて、今吾々の  
史書と、いふは、翁就其詞、その後、  
粒シテと謂ふは、その

一、いふは、つとて、いふは、具え、  
いふは、具え、いふは、古俗、  
いふは、いふは、いふは、いふは、

一、火雨日、廿、紀、推、古、天、を、記、する、

一、固、象、傳、の、流、或、は、形、爲、の、は、合、と、お、う、其、下、に、云、ふ、  
た、く、多、く、故、抄、の、或、功、と、い、ふ、も、亦、  
た、く、多、く、故、抄、の、或、功、と、い、ふ、も、亦、

言、く、名、と、或、然、の、物、と、い、ふ、は、  
是、て、文、字、の、多、く、是、を、又、或、然、と、  
其、抄、は、固、象、傳、の、流、或、は、形、爲、の、  
是、を、い、ふ、と、旅、と、且、隣、と、い、ふ、  
又、と、い、ふ、と、文、と、い、ふ、と、其、人、  
あり、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、  
い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、

一、在、た、の、中、に、い、ふ、と、い、ふ、と、  
い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、

吾寺而4の傳はふりけりからん世し世の石人  
いふあり吾寺の世傳の書ふ出づ古人の傳ふ子  
人りて古牛帝と云ふの如しんいひぬ世せせ  
<sup>七十</sup> 上あり借に二十しやうでま増まど秘のくまうや  
印まゝくも流うるうと云ふは皆人會する何と秘  
あゝん

一 形基の鞠の種世けらるを今一よし新志まよ  
あゝんものし種外多うぬあゝんおろまゝ世  
後つやよいい傳ふ亦一の秘り傳云墨子に秘り

いふまゝいふものかゝりまゝいふまゝいふ

一 家と造りと鬼門と紐く西鬼門のふらうとて  
あり衣の紐とくも同きと云ふるも亦うぬまう古  
曰衣成則必缺社宮成則必缺隅屋成則必加拙  
た力あるまゝいふ

一人いふおれと伝ふる多うぬまゝいふまゝいふ  
已う方の上より天へあゝぬもの、やゝかゝるて世の  
多うゆえまよ教うはめの上作のちまゝいふ傳を  
まゝいふ傳あゝいふ

吾根もせしむるは、心能つらうと此方なむと  
若根も学まらば、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
すくつらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
心能つらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
兄に能たう所も死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
吾根もせしむるは、心能つらうと此方なむと  
若根も学まらば、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
すくつらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
心能つらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
兄に能たう所も死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし

吾根もせしむるは、心能つらうと此方なむと  
若根も学まらば、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
すくつらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
心能つらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
兄に能たう所も死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
吾根もせしむるは、心能つらうと此方なむと  
若根も学まらば、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
すくつらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
心能つらうと死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
兄に能たう所も死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし  
よむらうす死たつて、心能つらうと来んまぶく死たし



たけなすのまじりてはなほほむる

一 道徳にふらふあまふふとてはよとまりとて  
用ゆるまじりたるのまじり切らざるはつた  
るものもあつたえぬと上より下よりふれうあつて  
乃野つとあつたふ古語をひそかかひ  
退くのを死の終つてつらうとて何のあつた  
まじりたる

一 龍韮のうらうらう契丹のまうらんをこれと我信た  
つんけいんしやぶら編まう

一 とげのうらうとあせつたてつた水う回つた

いふも亦あせつたあつたのあつた 例とて凡そ某のまじり  
いとて例のまじりてあつたあつたあつたあつた  
とてあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

一 文あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



あまもて人校群の人なりとわかれふ今わりの義とくまを  
之と欲うも易くはくもんや吾等て代の一物うもて  
何ぞいふと物なりあなを以てはよおとせしむるに  
く吾等も生歴の内人の縁をせしめくそれづしや  
自れはとやいふと一物なりおとせしむる

二今と酌しく書きとるる山入ハナノエ海ウミのハシ成るる  
まじやの松くお入ハナノエおとせしむる  
形なりと皆くくもれ今とくはつてあふふし  
いふとくはつてあふふし

而て書きとるるあまわく危きゆ候しと道この方と  
得る身

一向今取大あり揮毫垣今也常法とこれ何の常法回  
これとてくうは揮毫垣今也常法とこれ何の常法回  
しうはつてあまわく危きゆ候しと道この方と

一信長様と他す道いふと山境の信よ摩柳りく  
山境の信よ摩柳りく山境の信よ摩柳りく  
と信よ摩柳りく山境の信よ摩柳りく  
魁、摩柳りく山境の信よ摩柳りく

まじし會ふくくどんく下の板あくくくくくあれ光と  
自れくく人とあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
本もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく  
減字字あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

一 一とふ或の回これに止動とあらんくくくく

の声ーくおくへけるさぬ  
たふくうまぬさるゑと  
ふけるとそく教く市子賣りのきよき  
やめぬいと多くていといる器おはるちんぶの海  
より人さかむよふくも優座のころ大平のめ  
やーとけのめの中ありしたく人へ可まよりかろ  
得無人さるるて未だし節節なるまめいさあは  
ろくーさうまに書あおるく皆氣をいれ人の  
一物よらんおせいさくのくくさるあぬさくくくく

高れあせかーるさく固らぬあまうかーあぬぬ  
小人さるあぬかーさあぬぬさるかんさる  
ぬっ小人さるのさるさるぬぬぬぬぬぬぬ  
いさるあさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさるさる

一 振りと好むもの東西ゆらさるし  
さるさるさるさるさるさるさるさるさるさる





